

# 平成30年度全国学力・学習状況調査 帯広市の結果について

## I 調査の概要

### 1 調査の目的

- 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- 以上のような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

### 2 調査の対象

- 市内小学校の第6学年の児童
- 市内中学校の第3学年の生徒

### 3 調査の内容

#### (1) 児童生徒に対する調査

##### ① 教科に関する調査（国語、算数・数学、理科）

国語、算数・数学はそれぞれ「主として『知識』に関する問題」（A）と「主として『活用』に関する問題」（B）を出題。

理科は（A）と（B）を一体的に出題。

主として「知識」に関する問題（A）	主として「活用」に関する問題（B）
・身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容 ・実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能 など	・知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力 ・様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力 など

※ 理科は平成27年度以来3年ぶりに実施。

##### ② 質問紙調査

学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する質問紙調査を実施。

#### (2) 学校に対する質問紙調査

学校における指導方法に関する取組や学校における人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する質問紙調査を実施。

### 4 調査の方式

悉皆調査（対象の全児童生徒が参加）

## 5 調査の実施日

平成30年4月17日（火）

## 6 調査を実施した学校数・児童生徒数

	小学校数（校）	児童数（人）	中学校数（校）	生徒数（人）
全国（公立）	19,386	1,030,031	9,597	967,196
北海道（公立）	1,012	39,617	589	39,683
帯広市	26	1,277	14	1,261

※表中の全国及び北海道（公立）の数値は、「平成30年度全国学力・学習状況調査 調査結果のポイント について～北海道（公立）における調査結果～」より抜粋。

※ 表中の帯広市の児童生徒数は、回収した解答用紙が最も多かった教科の解答用紙の枚数で算出。

## 7 調査結果の解釈等に関する留意事項

- 本調査の結果については、児童生徒が身に付けるべき学力の特定の一部であることや、学校における教育活動の一側面に過ぎないことに留意する必要がある。
- 本調査の結果においては、平均正答率等の数値を示しているが、これらの数値のみで必ずしも調査結果のすべてを表すものではなく、中央値、標準偏差等の数値や分布の状況を表すグラフの形状など他の情報と合わせて総合的に結果を分析、評価する必要がある。また、個々の設問や領域等に着目して学習指導上の課題を把握・分析し、児童生徒一人一人の学習改善や学習意欲の向上につなげることも重要である。
- 平成29年度より、国が公表する都道府県の結果については、数値データによる単純な比較や序列化、過度な競争の助長を避けるためとして、整数値による公表となったが、本市においては可能な範囲で経年比較をするため、本市の各教科の平均正答率については、国が公表した整数値と、国から提供されたデータをもとに市教委が独自に算出した小数値で示している。

## II 平成30年度 調査の結果

### 1 本市の児童生徒の学力の状況の概観

#### 【各教科の平均正答率】

	小学校					中学校				
	国語 A	国語 B	算数 A	算数 B	理科	国語 A	国語 B	数学 A	数学 B	理科
全国	70.7	54.7	63.5	51.5	60.3	76.1	61.2	66.1	46.9	66.1
全道 (札幌市を含む)	70.1	52.7	62.2	48.7	58.8	76.6	61.2	64.9	45.8	66.7
全道 (札幌市を除く)	69.4	52.3	61.4	47.6	58.8	76.0	60.3	63.6	44.3	66.1
帯広市	69.4	53.3	62.9	49.0	60.2	76.7	62.4	65.7	47.2	66.8
全国差	-1.3	-1.4	-0.6	-2.5	-0.1	+0.6	+1.2	-0.4	+0.3	+0.7
全道差 (札幌市を含む)	-0.7	+0.6	+0.7	+0.3	+1.4	+0.1	+1.2	+0.8	+1.4	+0.1
全道差 (札幌市を除く)	0	+1.0	+1.5	+1.4	+1.4	+0.7	+2.1	+2.1	+2.9	+0.7
H29 全国差	-1.4	-2.2	-2.1	-3.8	-0.6	-1.7	-0.8	-0.7	-0.6	-0.7

※全国：国が公表した小数値

※全道（札幌市を含む・除く）：いずれも北海道教育委員会が独自に算出し、公表した小数値

※帯広市：国から提供されたデータをもとに独自に算出した小数値

※H29 全国差：理科のみ平成27年度の小数値と比較

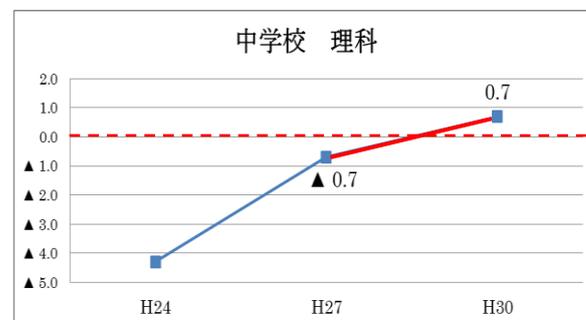
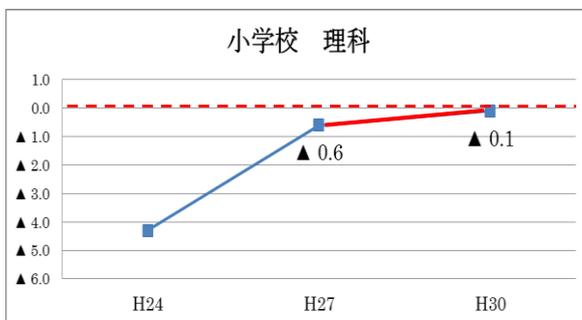
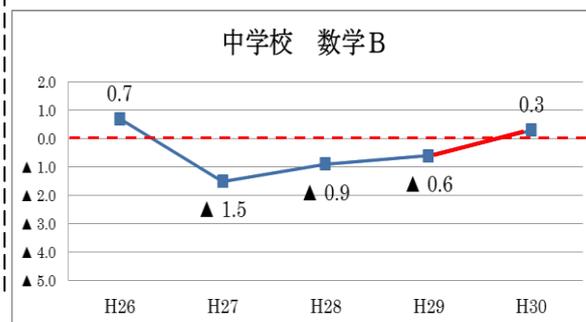
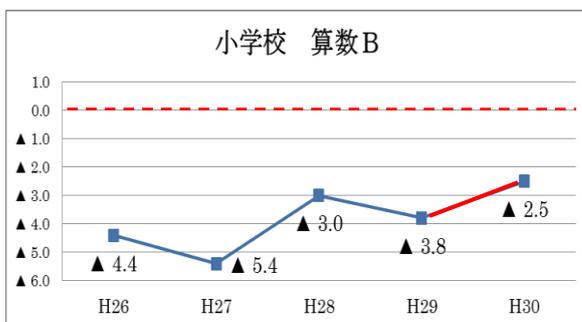
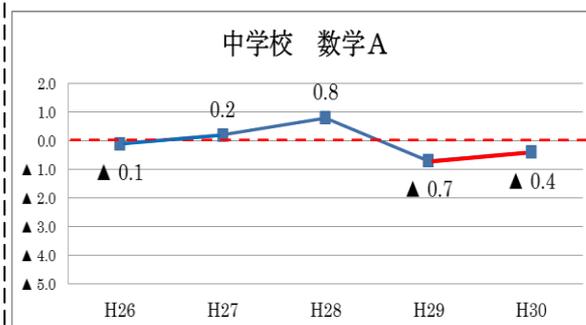
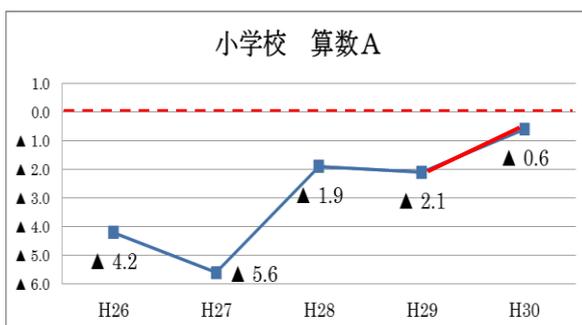
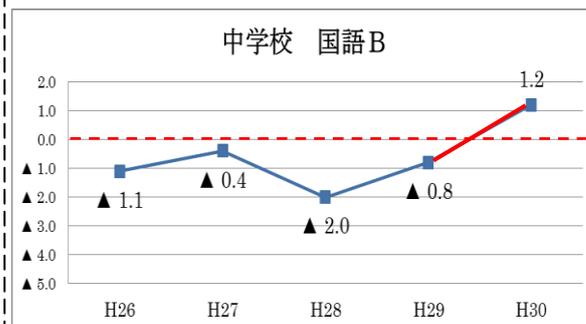
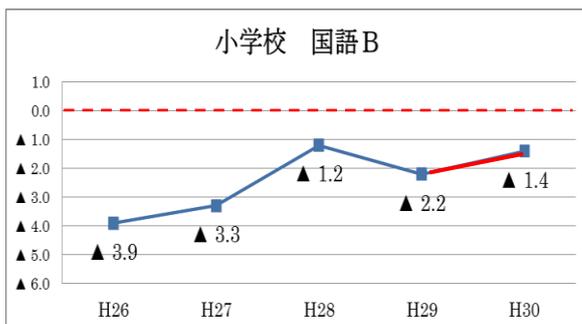
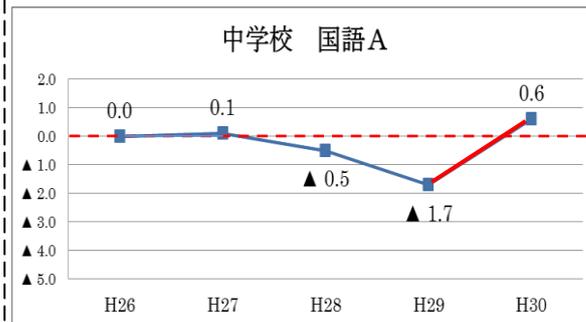
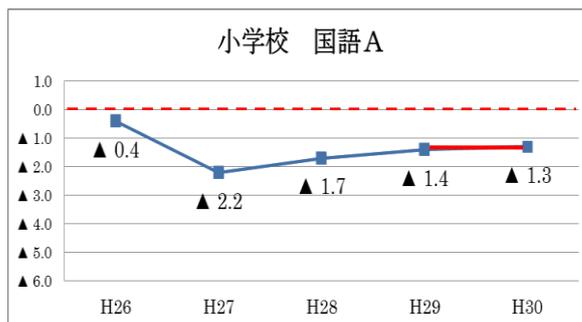
#### 【小学校】

- 全国と比較すると、5教科ともに全国の平均正答率を下回った。
- 全道（札幌市を除く）と比較すると、国語B、算数A、算数B、理科で全道の平均正答率を上回った。

#### 【中学校】

- 全国と比較すると、国語A、国語B、数学B、理科で全国の平均正答率を上回った。
- 全道（札幌市を除く）と比較すると、5教科とも全道の平均正答率を上回った。
- 現在の中学校3年生が小学校6年生の時（平成27年度）の全国との差を比較すると、理科を除いた4教科で改善傾向にある。

## 【全国と本市の平均正答率の差の推移】

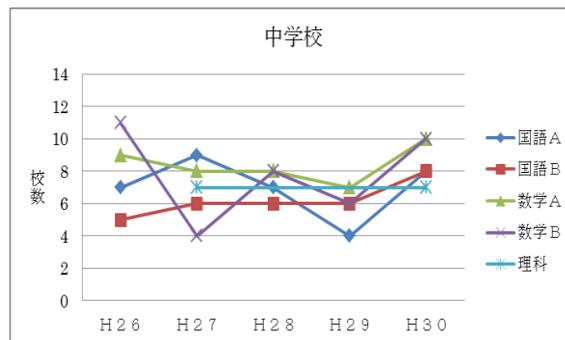
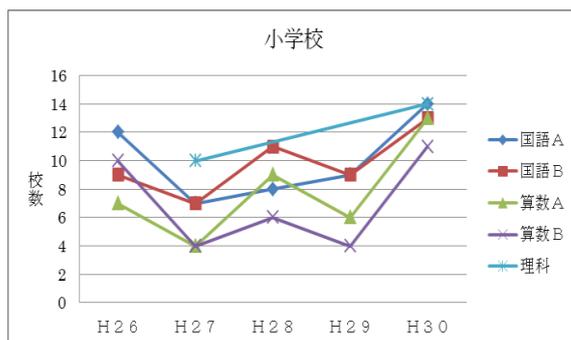


昨年度(理科については平成27年度)と比較すると、5教科とも全国との差が縮まった。

昨年度(理科については平成27年度)と比較すると、5教科とも全国との差が縮まり、そのうち国語A、国語B、数学B、理科の4教科については、全国の平均正答率を上回った。

### 【各教科における全国の平均正答率を上回った（同等の）学校数の推移（校数）】

	小学校					中学校				
	H26	H27	H28	H29	H30	H26	H27	H28	H29	H30
国語A	12	7	8	9	14	7	9	7	4	8
国語B	9	7	11	9	13	5	6	6	6	8
算数(数学)A	7	4	9	6	13	9	8	8	7	10
算数(数学)B	10	4	6	4	11	11	4	8	6	10
理科	—	10	—	—	14	—	7	—	—	7

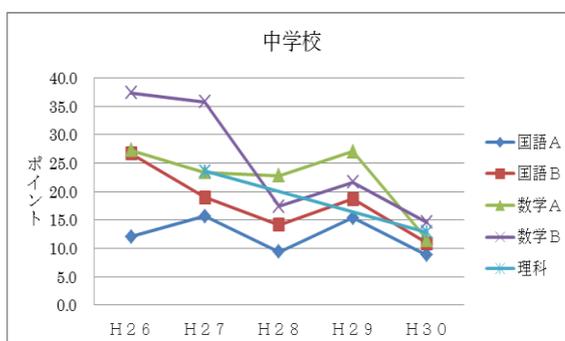
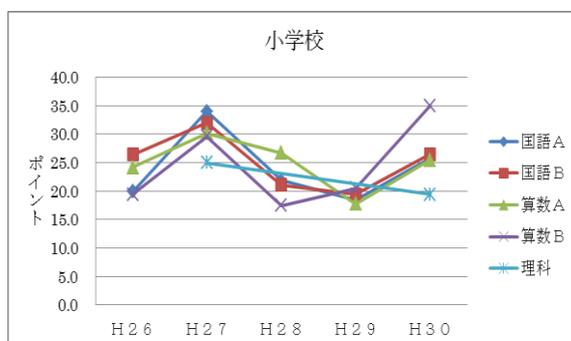


昨年度(理科については平成27年度)と比較すると、全国の平均正答率を上回った小学校校数は5教科とも増加した。

昨年度(理科については平成27年度)と比較すると、全国の平均正答率を上回った中学校校数は理科を除き4教科とも増加した。

### 【各教科における平均正答率の最も高かった学校と最も低かった学校の差の推移（ポイント）】

	小学校					中学校				
	H26	H27	H28	H29	H30	H26	H27	H28	H29	H30
国語A	19.9	34.0	21.9	18.4	25.8	12.1	15.7	9.4	15.4	8.8
国語B	26.4	32.0	21.1	19.4	26.5	26.7	19.0	14.2	18.7	10.9
算数(数学)A	24.2	30.2	26.7	17.8	25.5	27.3	23.4	22.8	27.1	11.5
算数(数学)B	19.4	29.6	17.5	20.5	35.0	37.4	35.8	17.4	21.7	14.6
理科	—	25.0	—	—	19.4	—	23.6	—	—	12.9

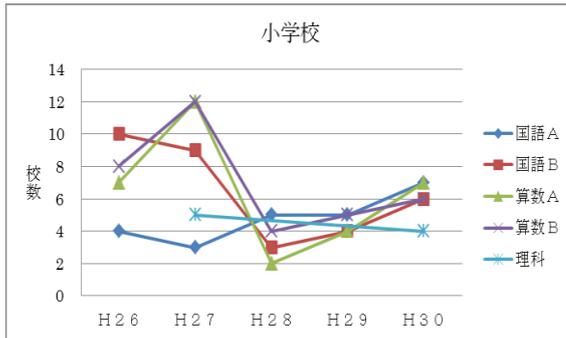


昨年度と比較して、国語、算数ABともに、差が広がった。理科は、平成27年度と比較して、差は縮まった。

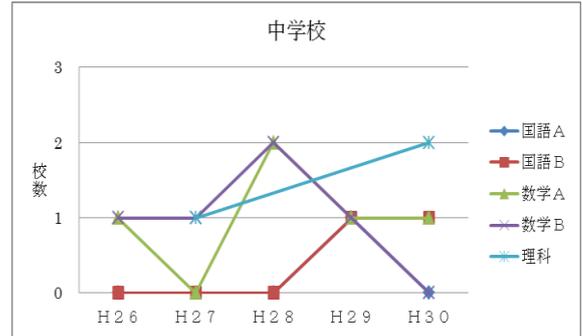
昨年度(理科については平成27年度)と比較すると、5教科ともに差は縮まった。

【全道の平均正答率を5ポイント以上、下回った学校数の推移（校数）】

	小学校					中学校				
	H26	H27	H28	H29	H30	H26	H27	H28	H29	H30
国語A	4	3	5	5	7	0	0	0	1	0
国語B	10	9	3	4	6	0	0	0	1	1
算数 数学 A	7	12	2	4	7	1	0	2	1	1
算数 数学 B	8	12	4	5	6	1	1	2	1	0
理科	—	5	—	—	4	—	1	—	—	2



昨年度と比較して、国語、算数ABにおいて、学校数が増加した。理科は、平成27年度と比較して、学校数が減少した。

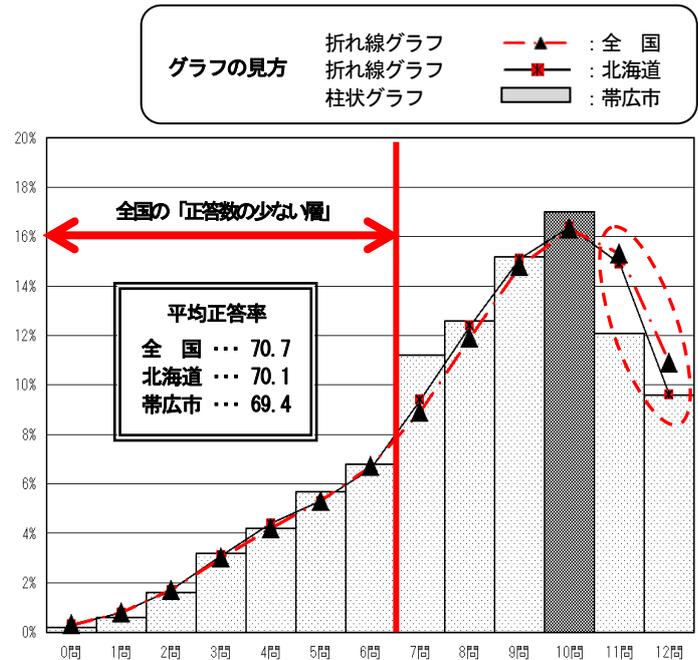


昨年度と比較して、国語A、数学Bにおいて、学校数が減少した。理科は、平成27年度と比較して、学校数が増加した。

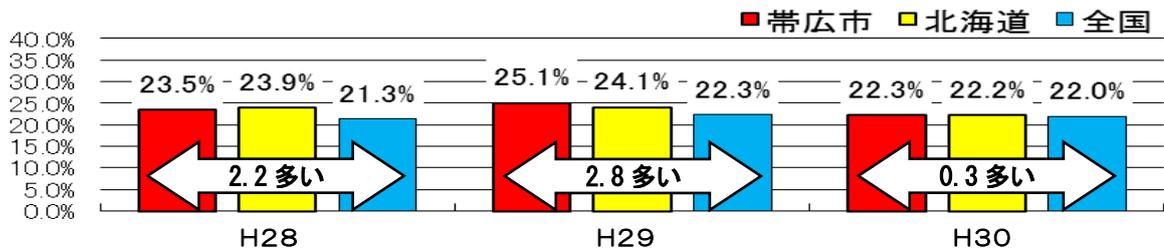
## 2 各教科の正答数の分布

### 【小学校 国語A】

- ・ 12問中、正解した児童数が最も多かったのは全国、北海道、本市ともに10問だった。
- ・ 全国と比較して、12問中、11問以上正解した上位層の割合が低かった。

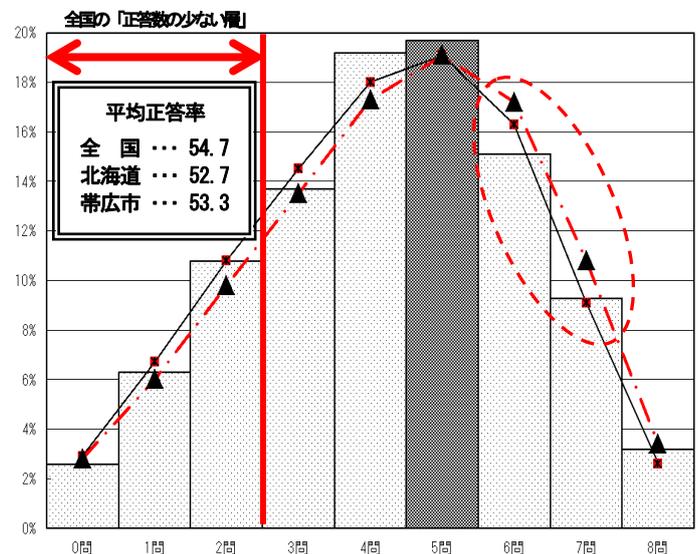


### 全国の「正答数の少ない層」と同じ範囲に含まれる児童の割合

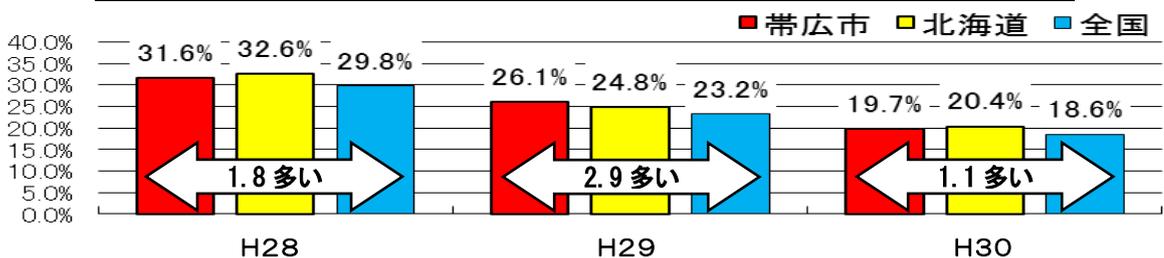


### 【小学校 国語B】

- ・ 8問中、正解した児童数が最も多かったのは、全国、北海道、本市ともに5問だった。
- ・ 全国と比較して、8問中、6問及び7問正解した児童数の割合が低かった。

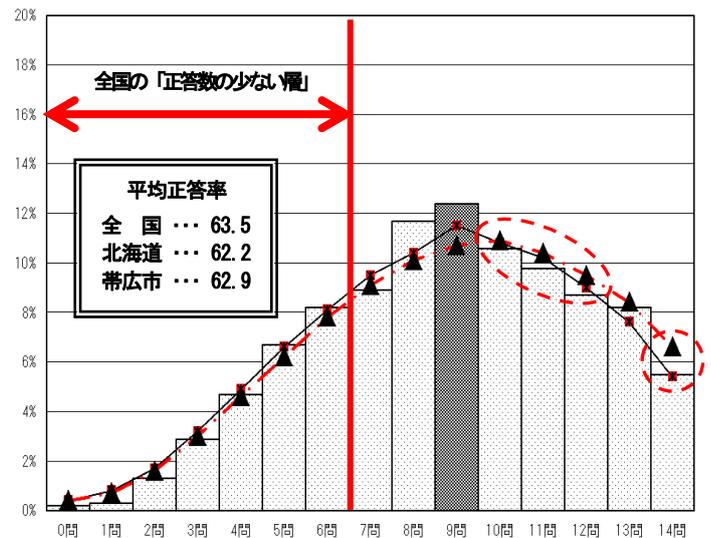


### 全国の「正答数の少ない層」と同じ範囲に含まれる児童の割合

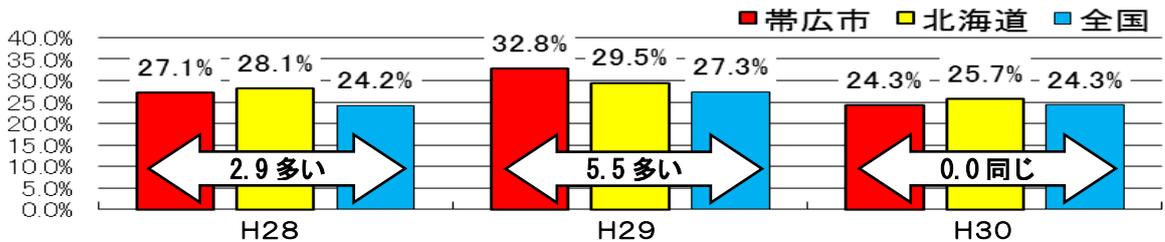


### 【小学校 算数A】

- ・ 14問中、正解した児童数が最も多かったのは、全国が10問、北海道と本市が9問だった。
- ・ 全国と比較して、14問中、10問以上正解した上位層の割合が低かった。特に、全問正解した児童数の割合が低かった。

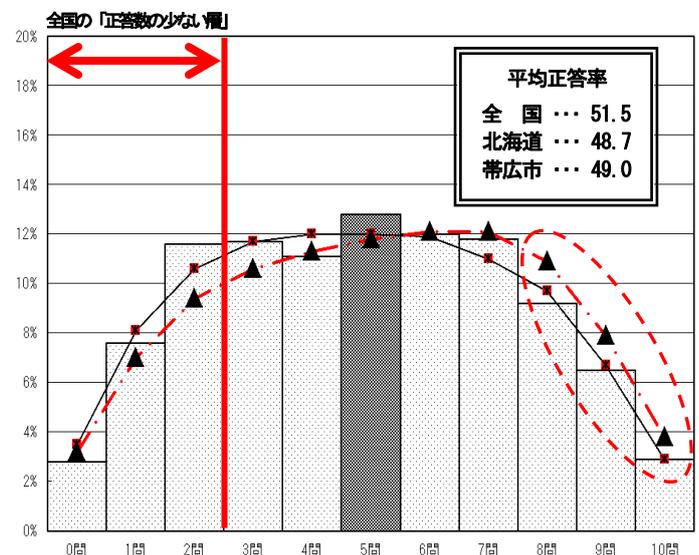


#### 全国の「正答数の少ない層」と同じ範囲に含まれる児童の割合

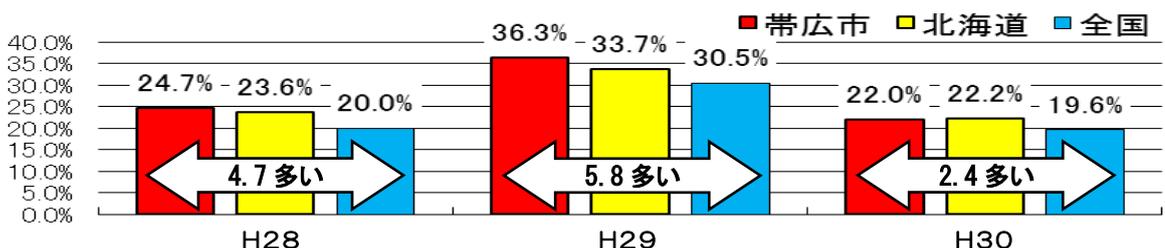


### 【小学校 算数B】

- ・ 10問中、正解した児童数が最も多かったのは、全国が6問と7問、北海道が5問と4問、本市が5問だった。
- ・ 全国と比較して、10問中、8問以上正解した上位層の割合が低かった。

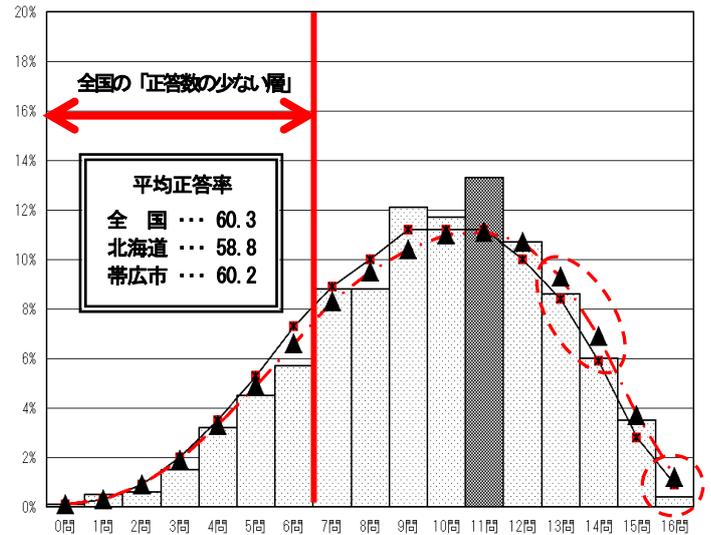


#### 全国の「正答数の少ない層」と同じ範囲に含まれる児童の割合

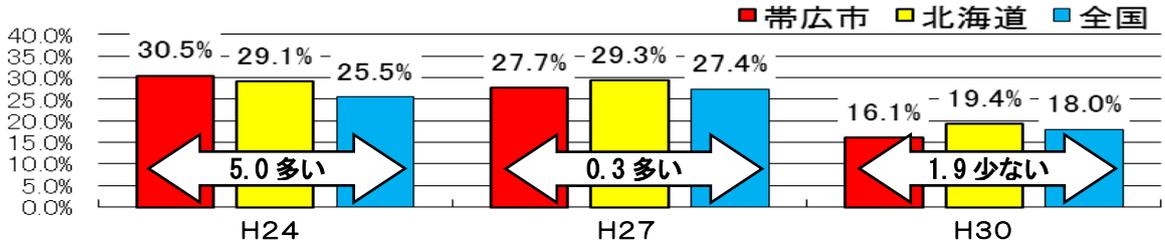


【小学校 理科】

- ・ 16問中、正解した児童数が最も多かったのは、全道が9～11問、全国と本市が11問だった。
- ・ 全国と比較して、16問中、13問以上正解した上位層の割合が低かった。特に、全問正解した児童数の割合が低かった。

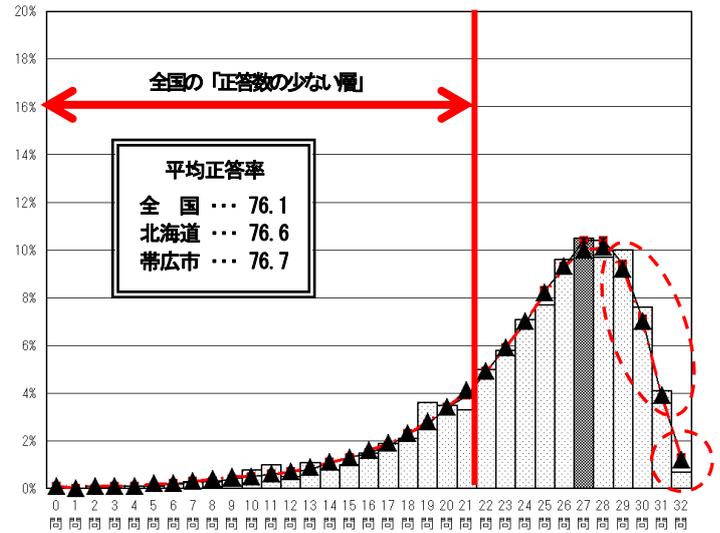


全国の「正答数の少ない層」と同じ範囲に含まれる児童の割合

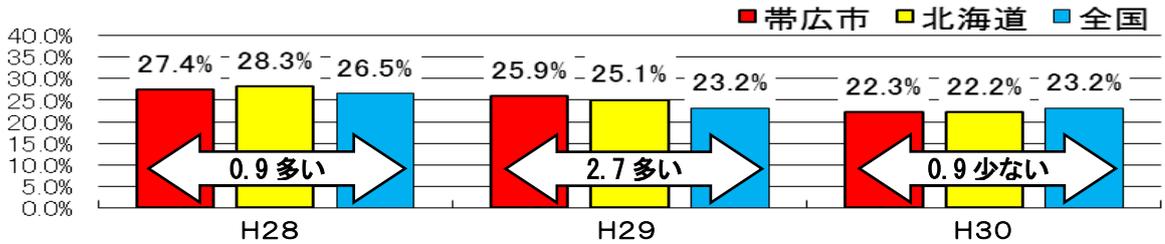


【中学校 国語A】

- ・ 32問中、正解した生徒数が最も多かったのは、全国が28問、北海道が27問と28問、本市が27問だった。
- ・ 全国と比較して、32問中、29～31問正解した上位層の割合が高かった。しかし、全問正解した生徒数の割合が低かった。

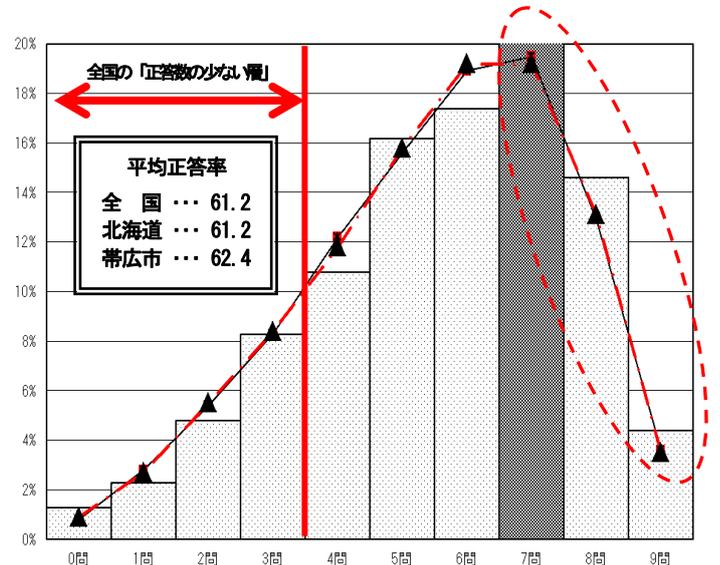


全国の「正答数の少ない層」と同じ範囲に含まれる児童の割合

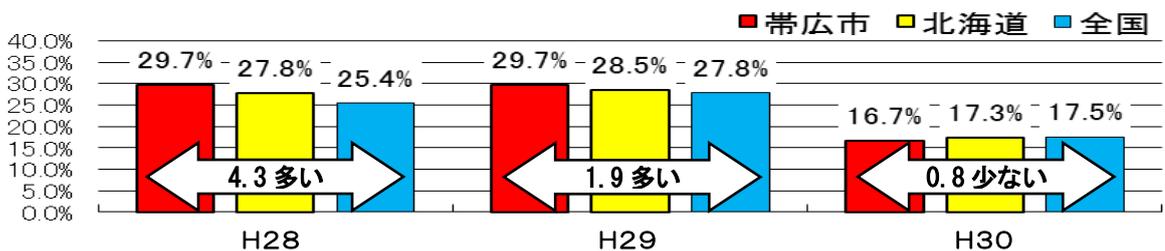


【中学校 国語B】

- ・ 9問中、正解した生徒数が最も多かったのは、全国が6問と7問、北海道と本市が7問だった。
- ・ 全国と比較して、9問中、7問以上正解した上位層の割合が高かった。

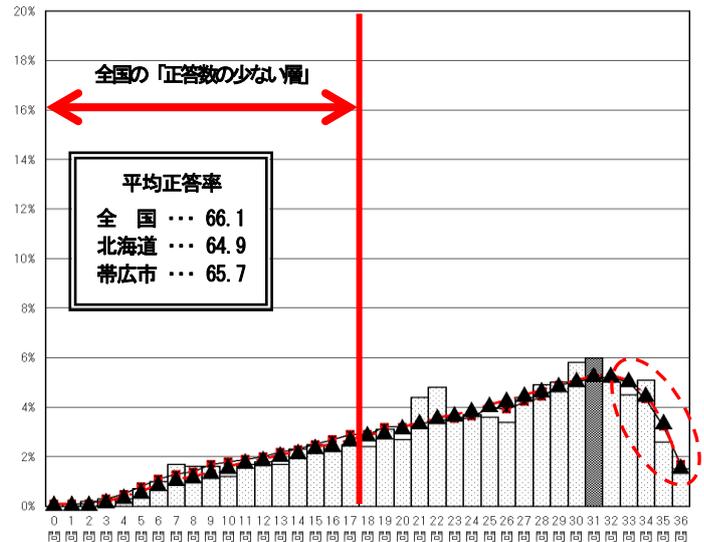


全国の「正答数の少ない層」と同じ範囲に含まれる児童の割合

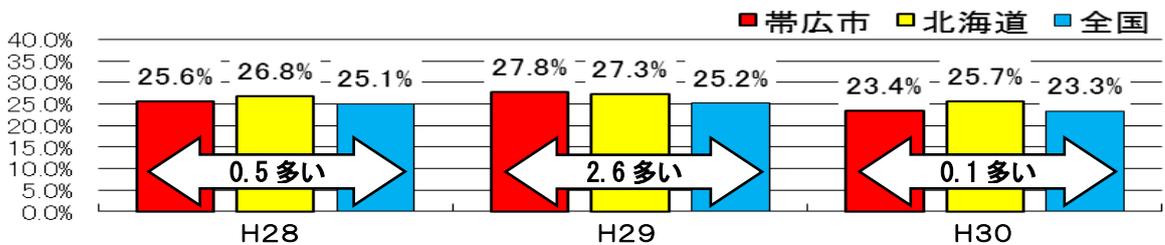


## 【中学校 数学A】

- ・ 36問中、正解した生徒数が最も多かったのは、全国と全道が31問と32問、本市が31問だった。
- ・ 全国と比較して、36問中、33問及び35問正解した生徒数の割合が低かった。しかし、34問及び全問正解した生徒数の割合が高かった。

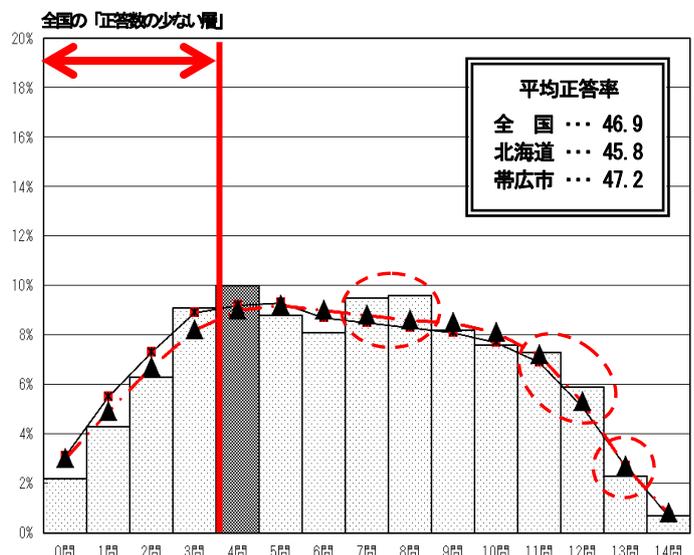


### 全国の「正答数の少ない層」と同じ範囲に含まれる児童の割合

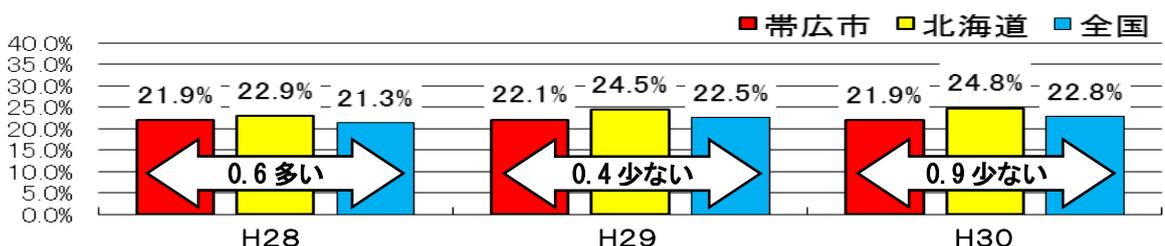


## 【中学校 数学B】

- ・ 14問中、正解した生徒数が最も多かったのは、全国と北海道が5問、本市が4問だった。
- ・ 全国と比較して、14問中、7問及び8問、11問、12問正解した上位層の割合が高かった。しかし、13問正解した生徒数の割合が低かった。

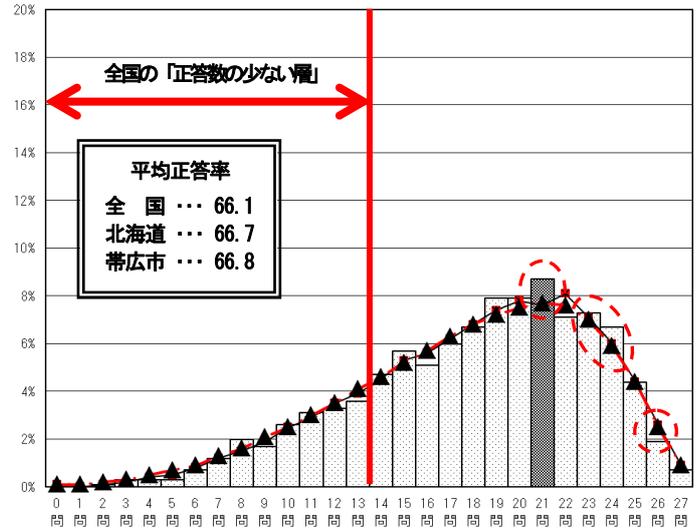


### 全国の「正答数の少ない層」と同じ範囲に含まれる児童の割合

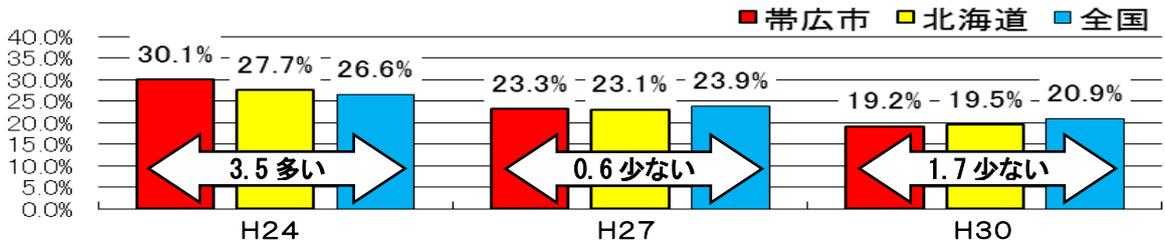


【中学校 理科】

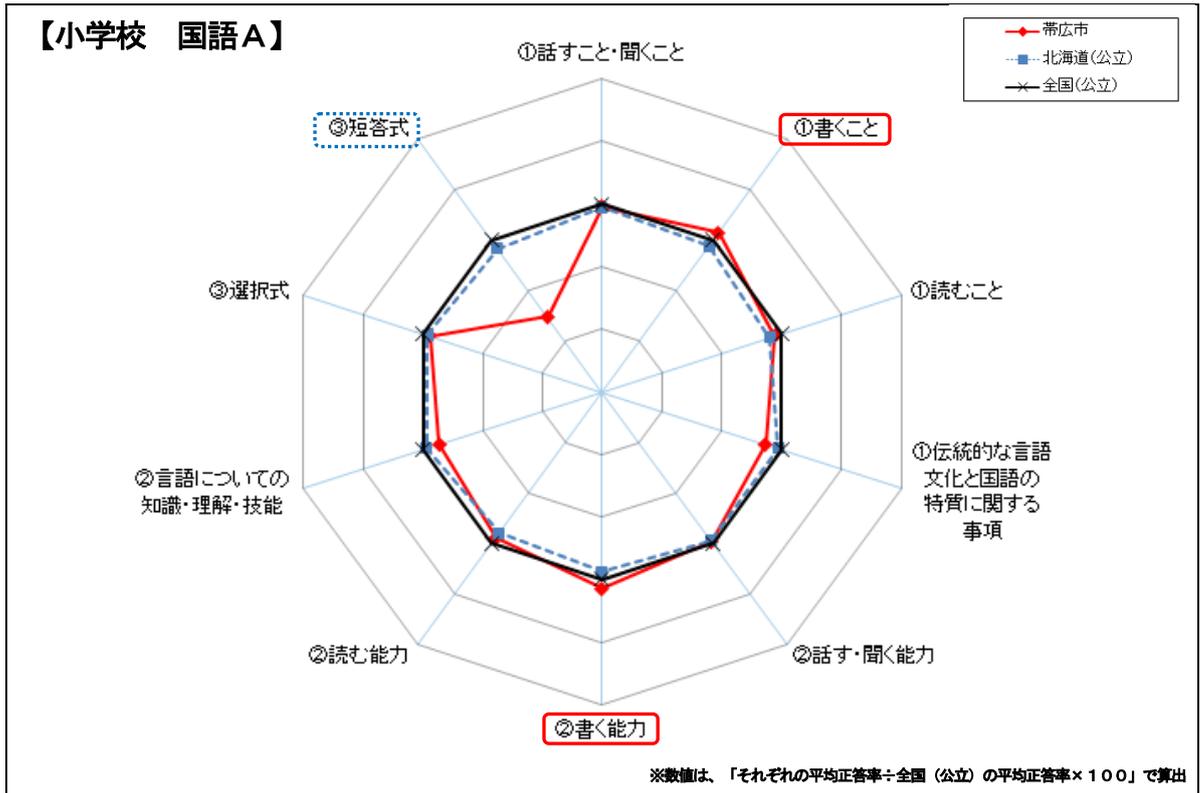
- ・ 27問中、正解した生徒数が最も多かったのは、全道が22問、全国と本市が21問だった。
- ・ 全国と比較して、27問中、21問及び23問、24問正解した上位層の割合が高かった。しかし、26問正解した生徒数の割合が低かった。



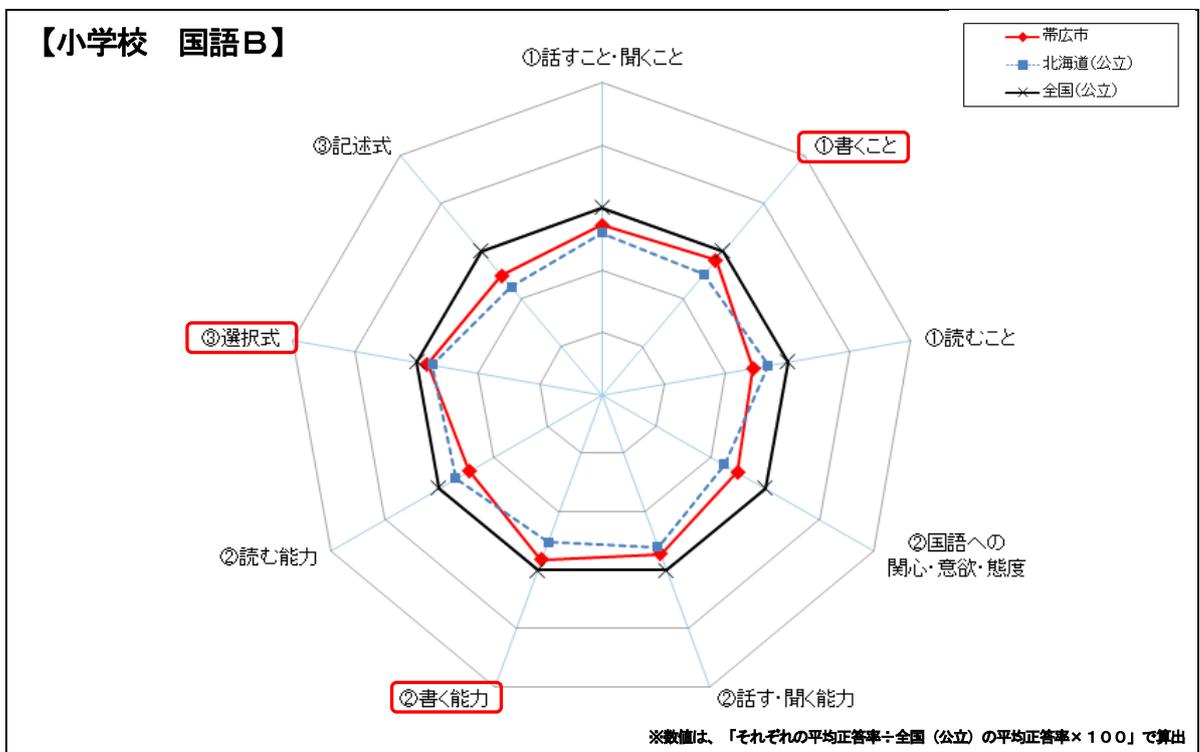
全国の「正答数の少ない層」と同じ範囲に含まれる児童の割合



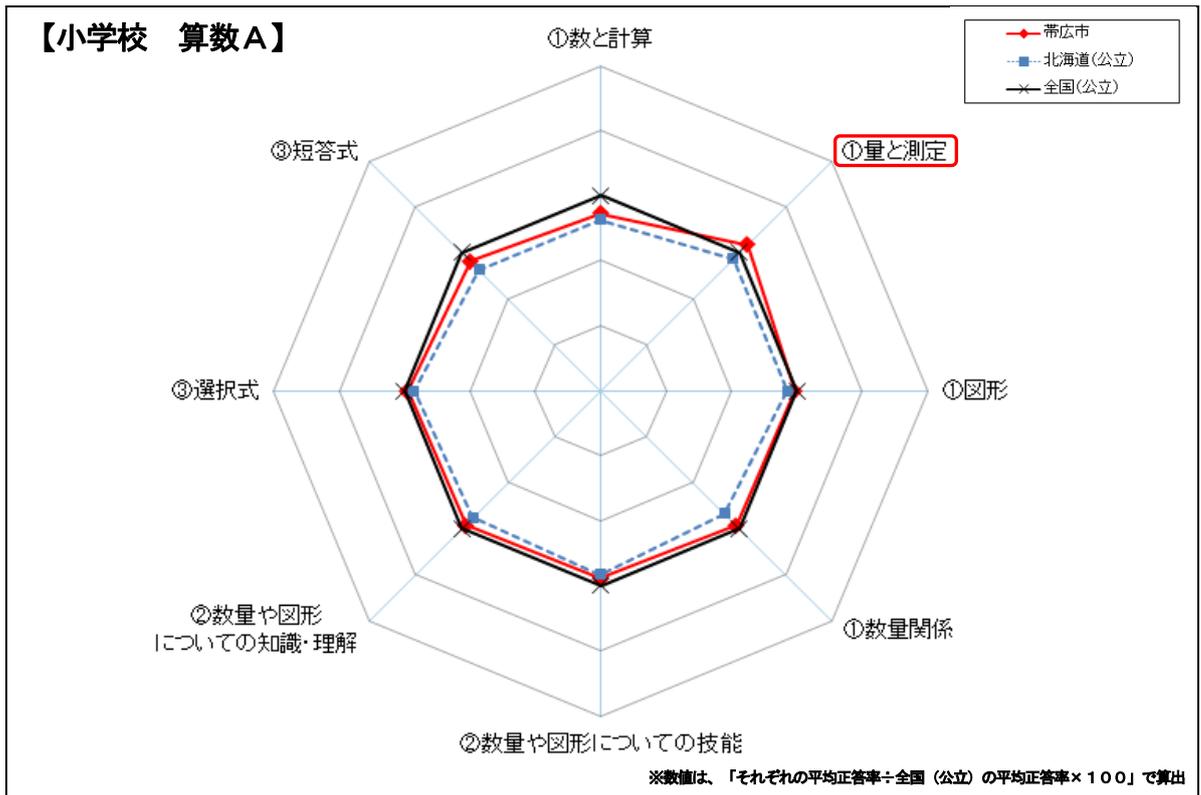
### 3 各教科の平均正答率（レーダーチャート図）



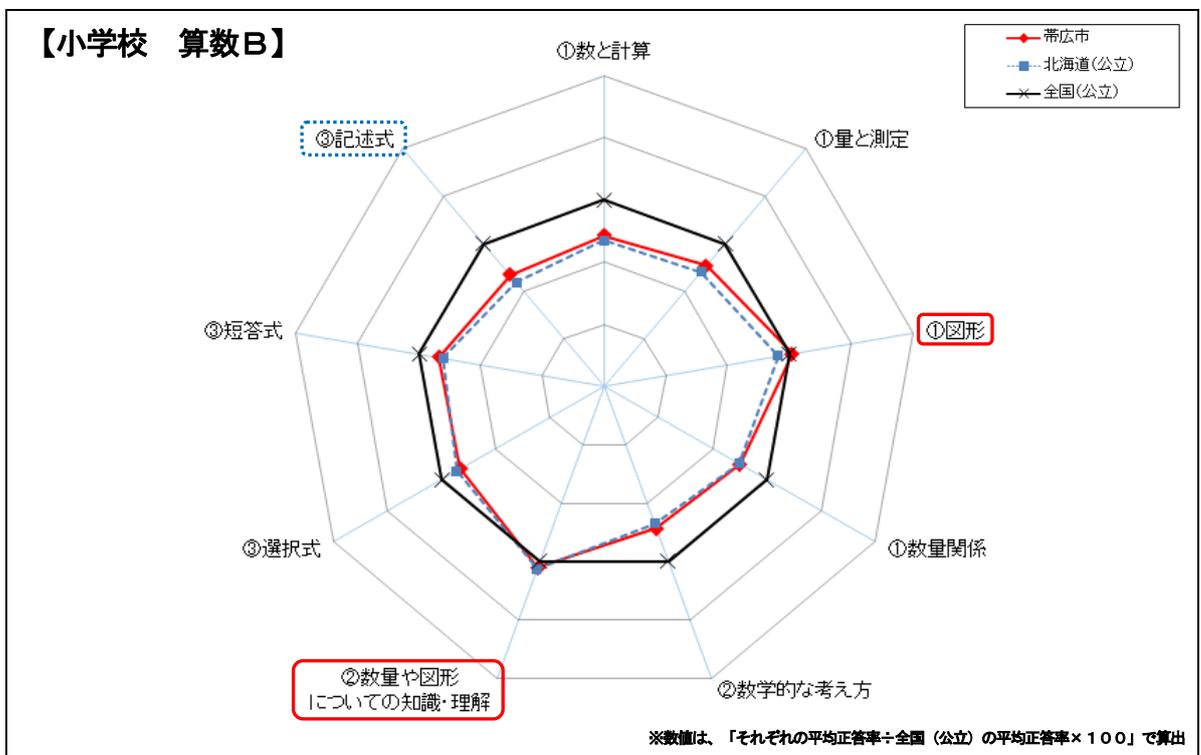
学習指導要領の領域等「書くこと」、評価の観点「書く能力」で全国の平均正答率を上回った。しかし、問題形式「短答式」で全国の平均正答率を大きく下回った。



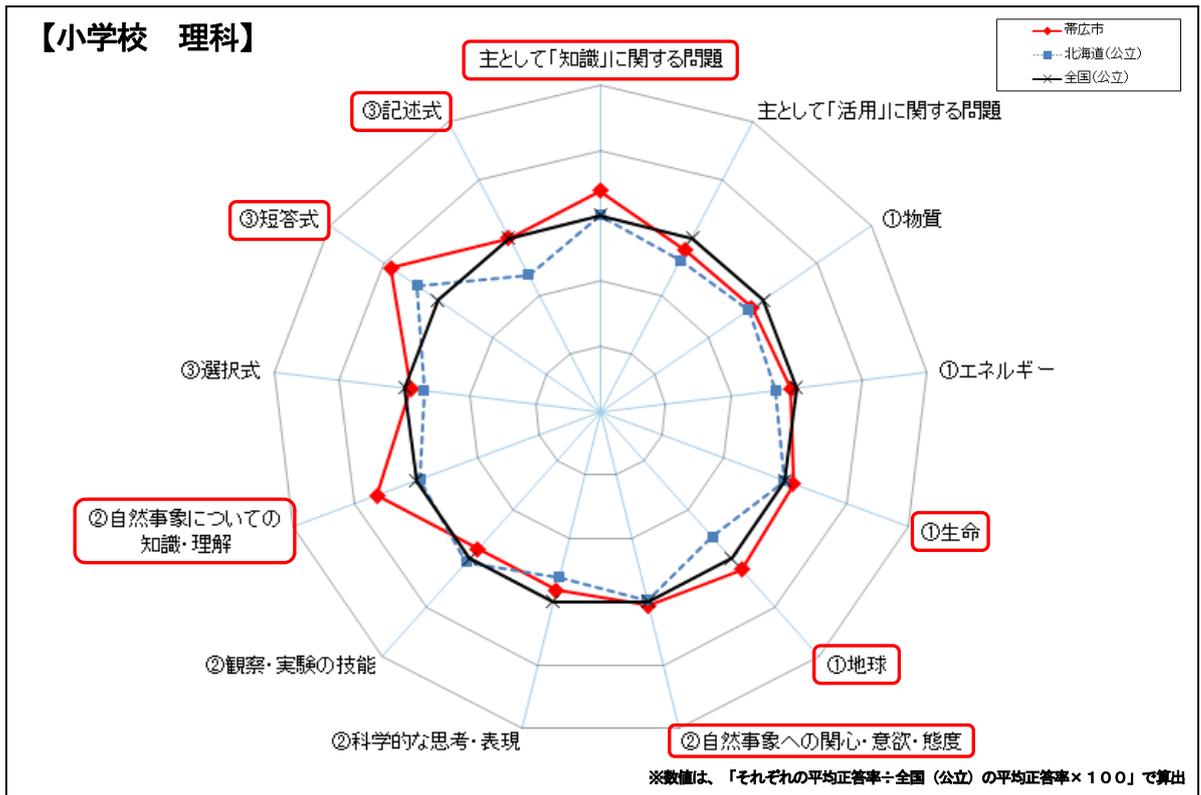
全ての区分で全国の平均正答率を下回るものの、学習指導要領の領域等「書くこと」、評価の観点「書く能力」、問題形式「選択式」では全国の平均正答率をやや下回る結果だった。



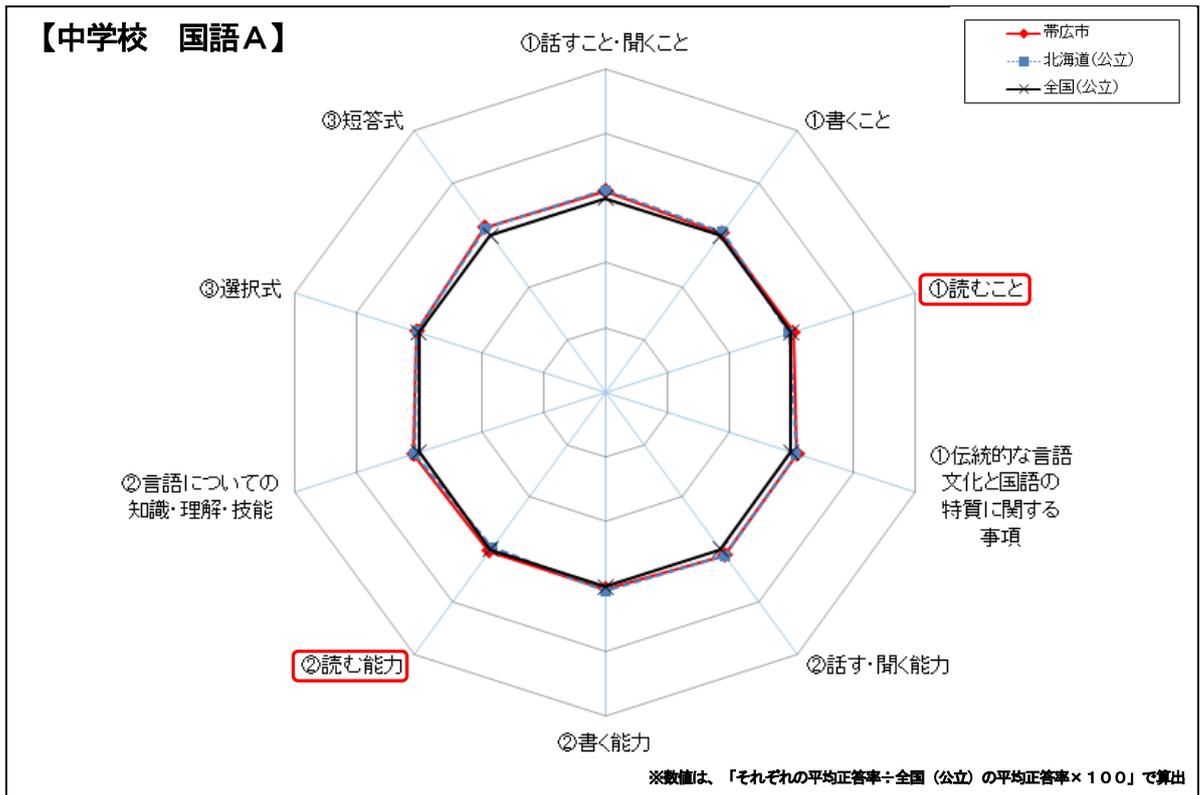
学習指導要領の領域「量と測定」で全国の平均正答率を上回った。



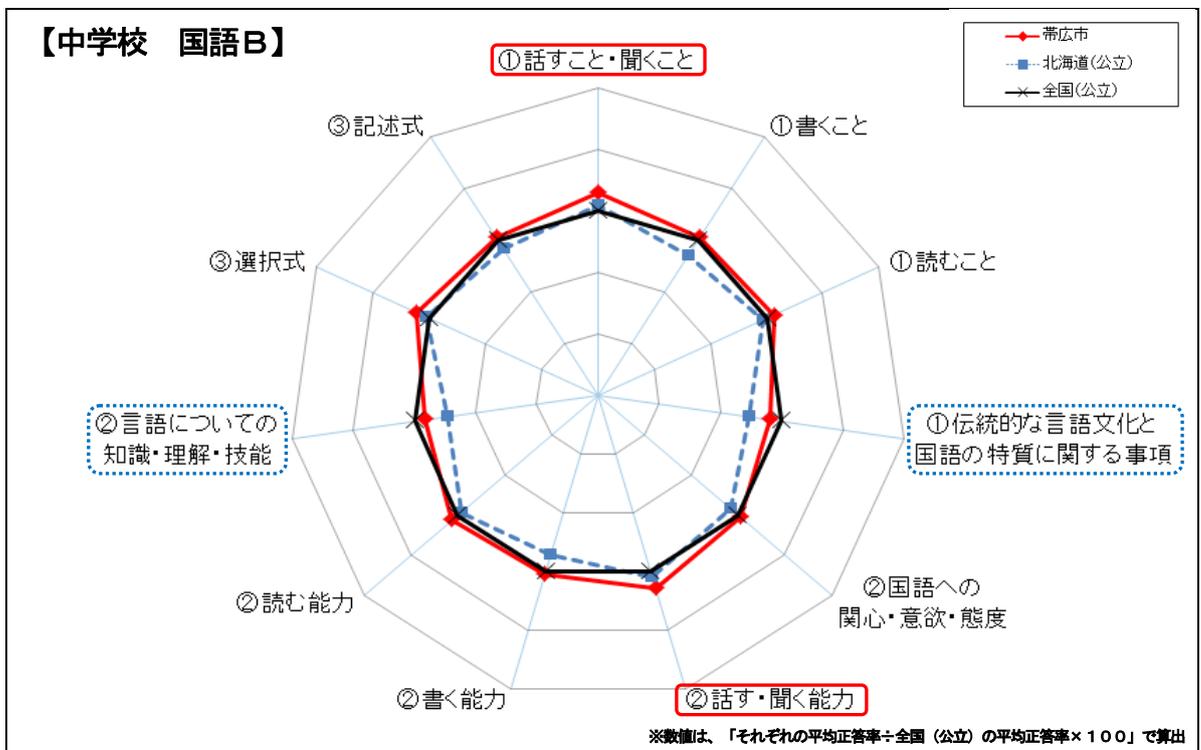
学習指導要領の領域「図形」、評価の観点「数量や図形についての知識・理解」で全国の平均正答率を上回った。しかし、問題形式「記述式」で全国の平均正答率を下回った。



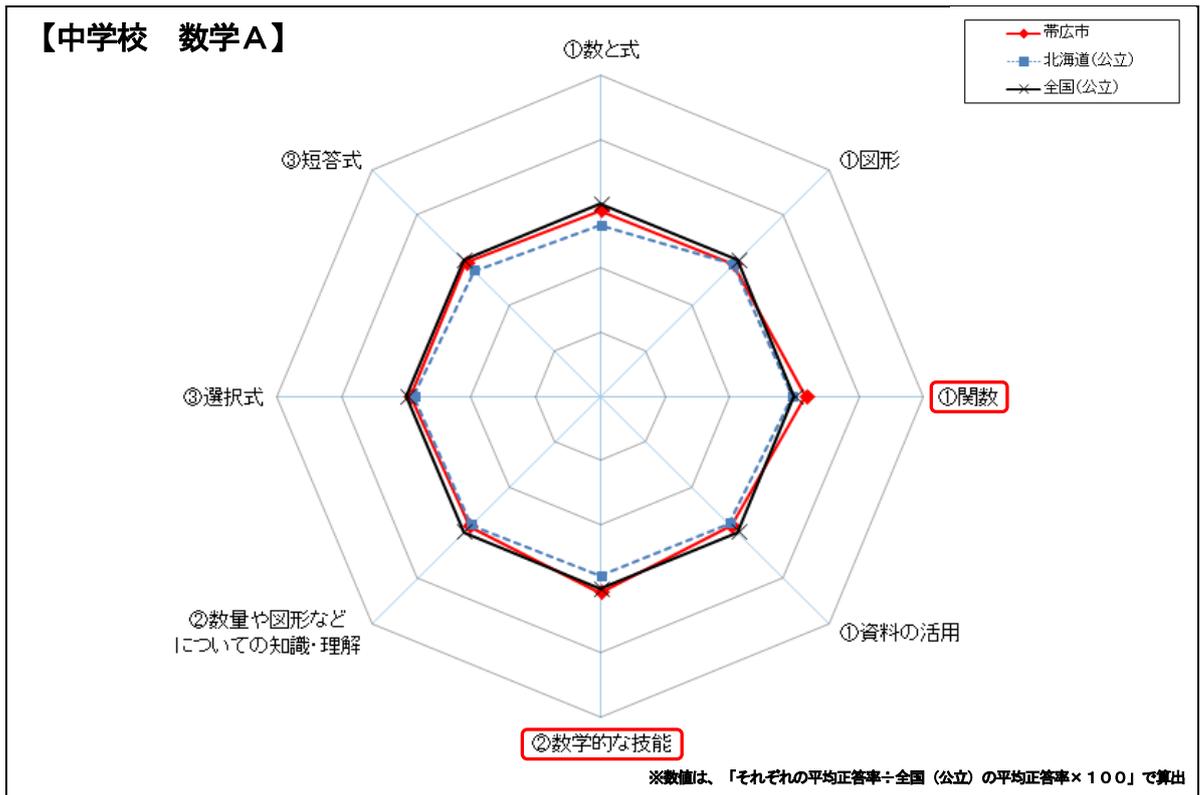
枠組みでは「主として『知識』に関する問題」、学習指導要領の区分等ではB区分にあたる「生命」「地球」、評価の観点「自然事象への関心・意欲・態度」「自然事象についての知識・理解」、問題形式「短答式」「記述式」で全国の平均正答率を上回った。



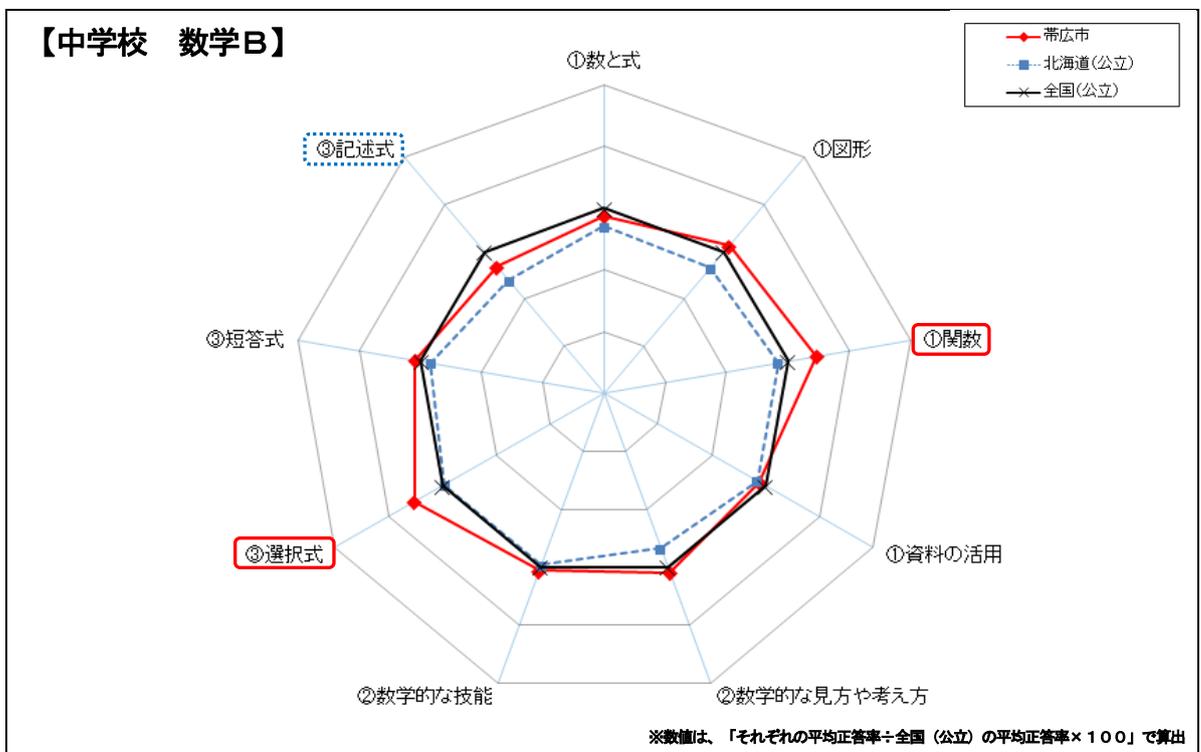
学習指導要領の領域等や評価の観点、問題形式の全ての区分で全国の平均正答率を上回った。全道と比較すると、学習指導要領の領域等「読むこと」、評価の観点「読む能力」で全道の平均正答率を上回った。



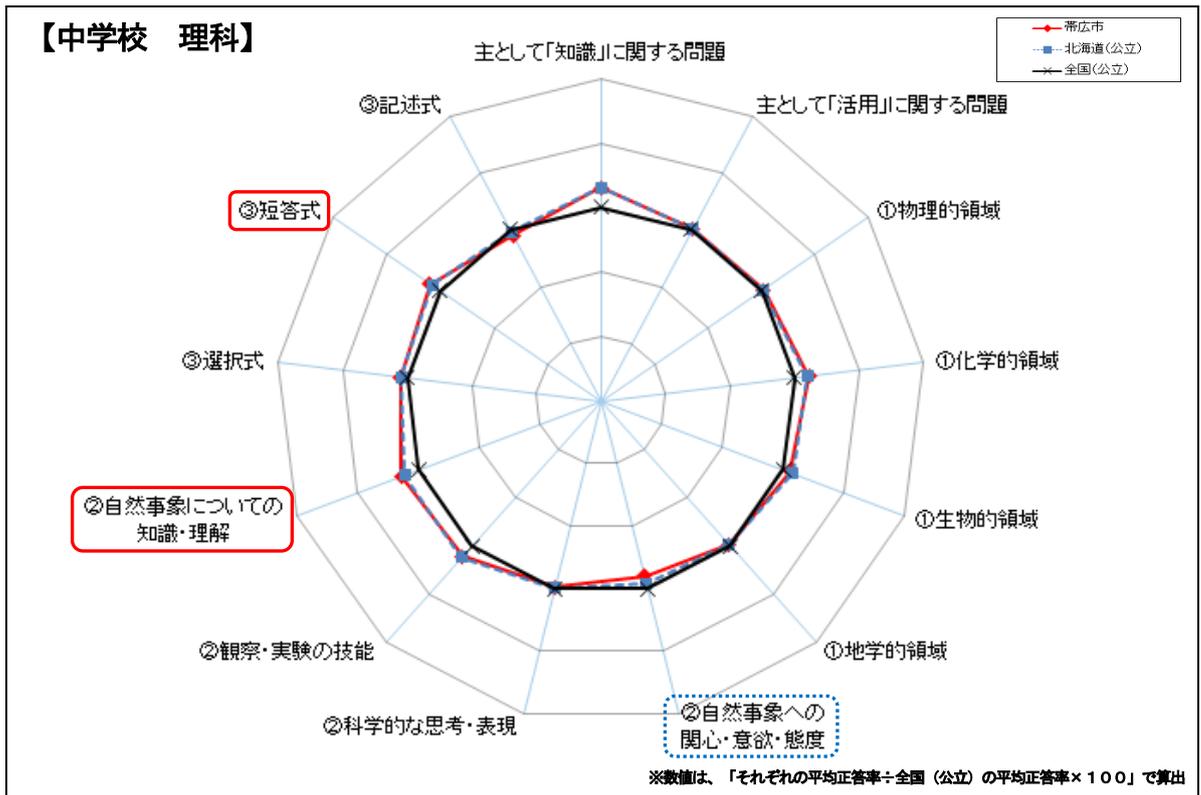
学習指導要領の領域等「話すこと・聞くこと」、評価の観点「話す・聞く能力」で全国の平均正答率を大きく上回った。しかし、学習指導要領の領域等「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」、評価の観点「言語についての知識・理解・技能」で全国の平均正答率を下回った。



学習指導要領の領域等「関数」、評価の観点「数学的な技能」で全国の平均正答率を上回った。



学習指導要領の領域等「関数」、問題形式「選択式」で全国の平均正答率を大きく上回った。しかし、問題形式「記述式」で全国の平均正答率を下回った。

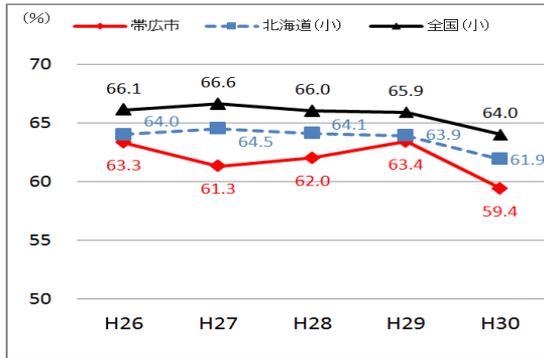


評価の観点「自然事象についての知識・理解」、問題形式「短答式」で全国の平均正答率を上回った。しかし、評価の観点「自然事象への関心・意欲・態度」で全国の平均正答率を下回った。

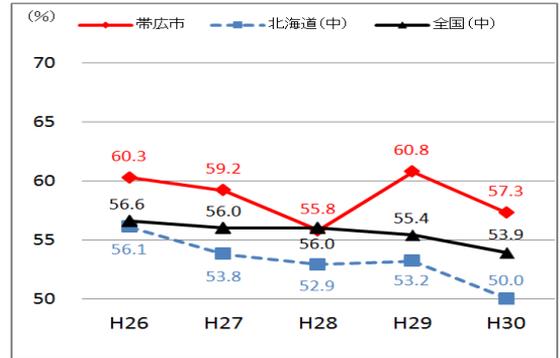
#### 4 児童生徒の学習状況の概観について

##### ① 算数・数学の勉強が好きな児童生徒の割合

【小学校】

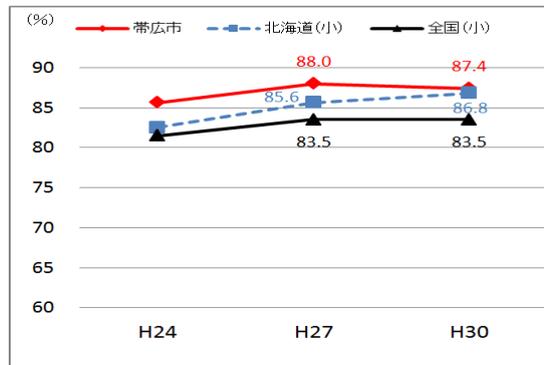


【中学校】

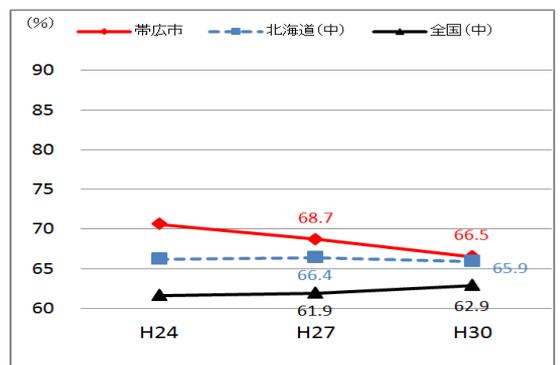


##### ② 理科の勉強が好きな児童生徒の割合

【小学校】

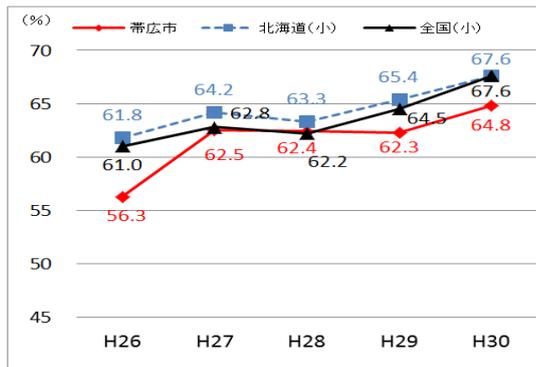


【中学校】

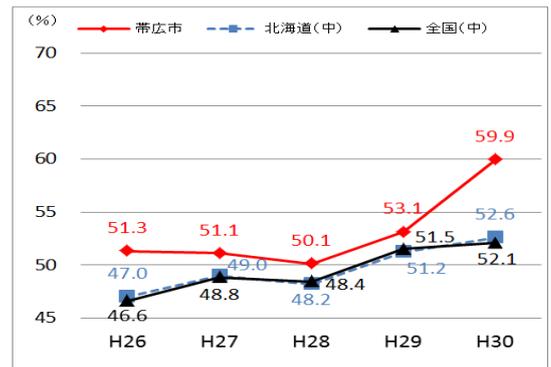


##### ③ 家で、自分で計画を立てて勉強をしている児童生徒の割合

【小学校】

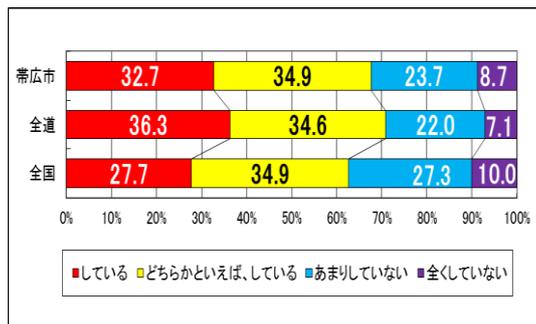


【中学校】

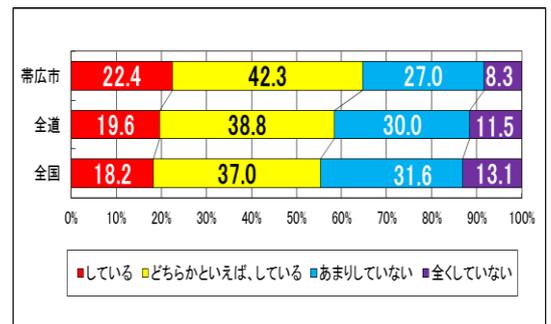


〈参考〉家で、学校の授業の予習・復習をしている（平成30年度 質問紙より）

【小学校】



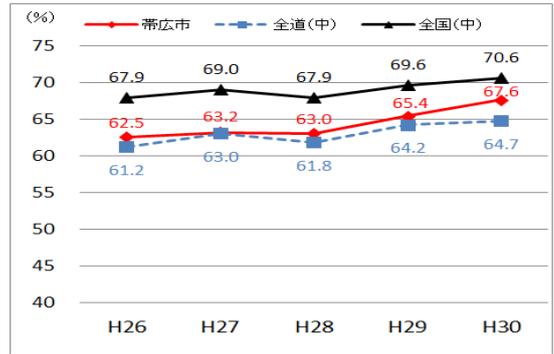
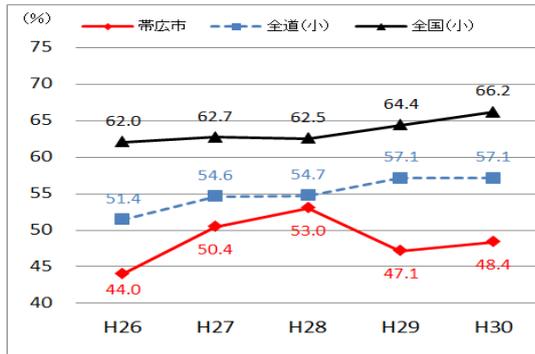
【中学校】



④ 普段（月～金）、1日当たり1時間以上勉強する児童生徒の割合

【小学校】

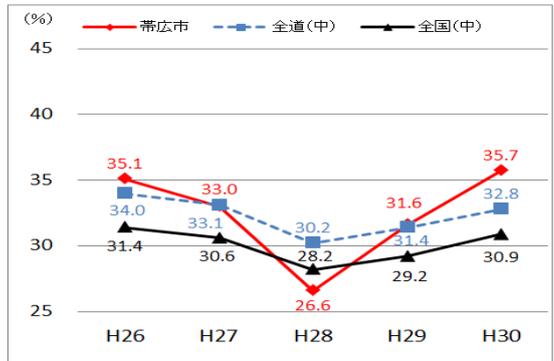
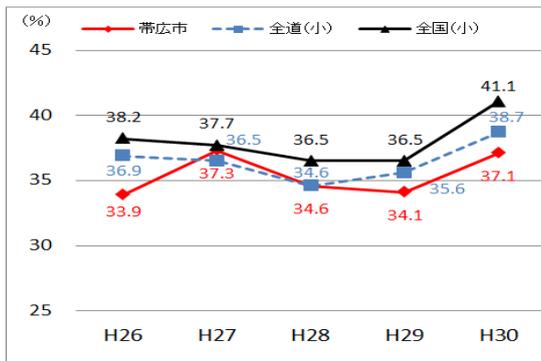
【中学校】



⑤ 普段（月～金）、1日当たり1時間以上読書する児童生徒の割合

【小学校】

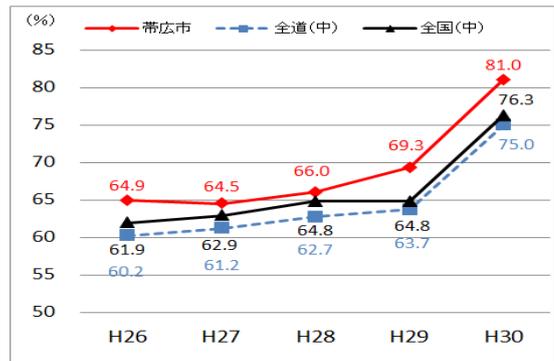
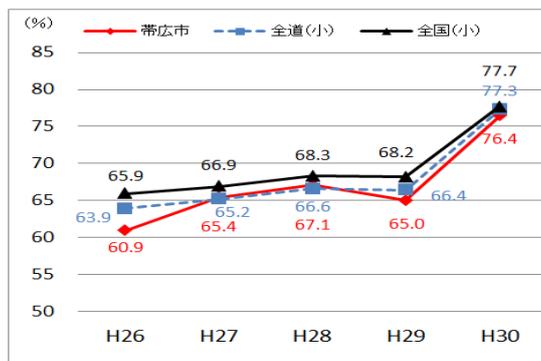
【中学校】



⑥ 学級の友達と(生徒)の間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができると思っている児童生徒の割合

【小学校】

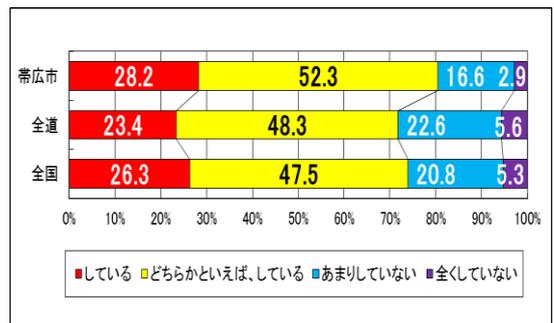
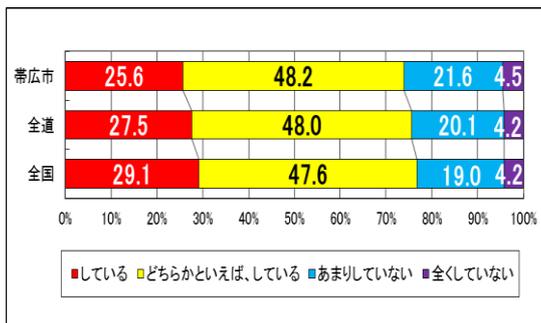
【中学校】



〈参考〉 これまでに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたと思う（平成30年度 質問紙より）

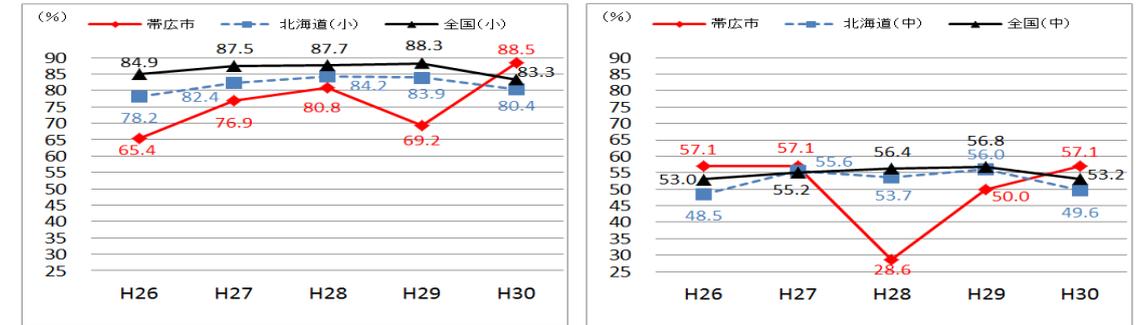
【小学校】

【中学校】

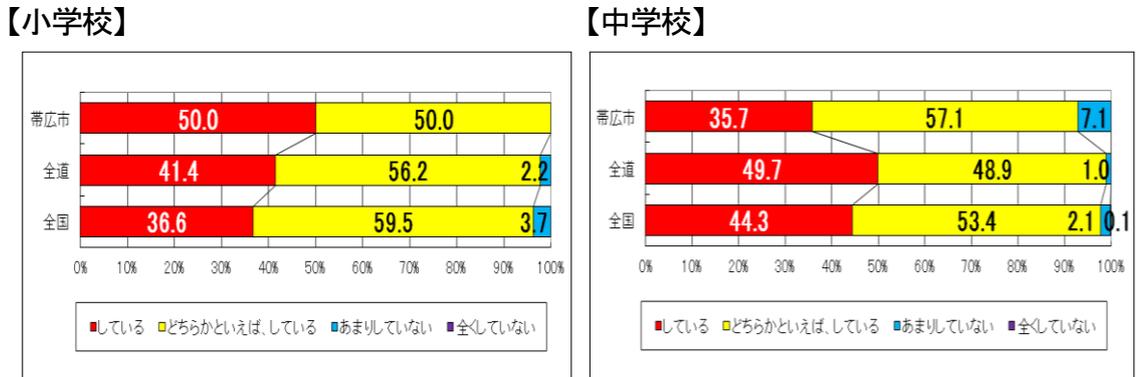


## 5 学校の学力向上の取組状況の概観について

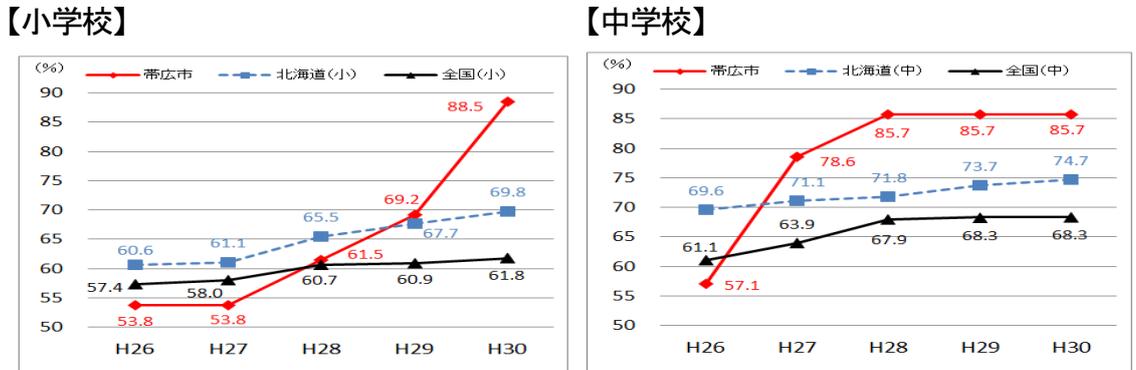
### ① 算数・数学の指導として、家庭学習の課題（宿題）を「よく与えた」学校の割合



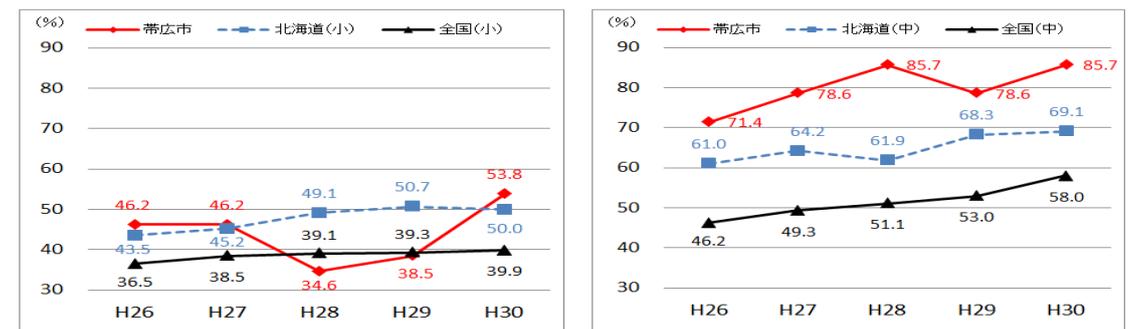
### ② 理科の授業において、前年度に、児童及び生徒の好奇心や意欲が喚起されるよう、工夫した学校の割合



### ③ 学習規律（私語をしない、話をしている人の方を向いて聞く、聞き手に向かって話をする、授業開始のチャイムを守るなど）の維持の徹底を「よく行った」学校の割合



### ④ 授業中の私語が少なく、落ち着いていると「よく思う」学校の割合



## 6 考察

### (1) 児童生徒の学力の状況について

小学校では、すべての教科において全国の平均正答率を下回ったが、昨年度と比較すると、すべての教科において全国の平均正答率との差が縮まり、改善の傾向が見られた。

中学校では、国語A・B、数学B、理科で全国の平均正答率を上回った。数学Aにおいては全国の平均正答率を下回ったものの、昨年度と比較すると、全国の平均正答率との差が縮まり、改善の傾向が見られた。

各学校において、学校改善プランに基づいた学力向上に係わる取組を継続して進めてきた結果であると考え。今後もさらに、基礎的・基本的な知識や技能の確実な習得のために、基本的な学習内容の重点的な指導や繰り返し・反復指導等の充実を図るなど授業改善を進めることが必要であると考え。

### (2) 児童生徒質問紙から

「家で、自分で計画を立てて勉強をしている」の質問に対して「している」「どちらかといえば している」と回答した児童生徒の割合は、小学校では全国平均を若干下回っているものの、中学校では全国平均を大幅に上回っている。また、「家で、学校の授業の予習・復習をしている」の質問に対して「している」と回答した児童生徒の割合は、小・中学校ともに全国平均を上回っている。

小・中学校において、「普段（月～金）、1日当たり1時間以上勉強する」と回答した児童生徒の割合は、昨年度と比較すると、小・中学校ともに改善傾向が見られるものの、依然として全国平均との差は大きい。特に、小学校では全国平均との差が著しく大きく、課題と考える。

各学校においては、引き続き保護者と連携し、生活リズムチェックシートなどを活用しながら児童生徒の1日の生活リズムを整え、家庭での学習の習慣や有効な時間の使い方などを指導・定着させることが必要と考える。

### (3) 学校質問紙から

「学習規律（私語をしない、話をしている人の方を向いて聞く、聞き手に向かって話をする、授業開始のチャイムを守るなど）の維持を徹底しましたか」の質問に対して「よく行った」と回答した学校の割合は、小・中学校ともに全国平均を上回っている。また、「授業中の私語が少なく、落ち着いている」の質問に対して「よく思う」と回答した学校の割合も、小・中学校ともに全国平均を上回っている。

このことから、学習環境の改善が確実に図られていると考える。

今後も、各学校において本調査の結果を学校全体で共有し、組織として児童生徒の学力の向上と生活習慣の改善に取り組んで行くことが大切である。

## 7 改善の方策

(1) 日常の授業改善に努める。

- ① 授業時間の導入段階に目標（課題・めあて）を提示し、児童生徒に課題意識をもたせるとともに、授業時間の終末段階では今日学習したことを確認する（まとめ・振り返り）をする。
- ② 発問を精選する。
- ③ 学習量の確保や定着・まとめ・振り返りの時間をしっかりと確保する（タイムマネジメント）。
- ④ その学年で身に付けなければならない学力を確実に身に付けさせる指導に努める。
- ⑤ 習熟の程度に応じた指導、少人数指導など、指導方法の工夫・改善に努める。
- ⑥ 基礎的・基本的な学習内容の重点的な指導や、繰り返し・反復指導等の充実を図る。

(2) 各学校において学習規律を設定し各教室に掲示するなど、学校全体で組織として統一した取組を徹底する。

(3) 家庭学習の時間の確保と学習習慣の定着のため、より一層家庭と情報や実態を共有し連携を強化する。

## 8 おわりに

学力や学習状況については、これまでの取組の成果が徐々に表れているところですが、まだまだ改善が必要です。各学校においては、それぞれの取組を徹底し、継続して取り組むことが、学力や学習状況を向上させる一番の近道であると考えています。

学校や教育委員会は各年度の結果を受けて改善方を再構築できるものの、個々の児童生徒にとっては一年一年が、かけがえのない時間であることを胸に刻み、今後も学力や学習状況を向上させる具体的な取組を進めてまいります。

また、これらの情報は、帯広市のホームページ（教育行政“学力向上の取組”）において、適宜、公表・発信してまいります。

平成31年3月 帯広市教育委員会